

AWC2019 参加の感想

東北大学 有賀 智理, 舘 和希

我々二人とも韓国訪問は今回が初めてで、実際に行くまではメディアを通して知る韓国のイメージ(プルコギとキムチ)しかなかった。開催時期はちょうど反日運動が頻繁に報道されていた時期で少し心配していたが、会場周辺では特にそのような動きは見られなかった。

まず、空港とホテルの間の移動でソウルの街並みを眺めることができた。都市部の発達具合は日本と変わらないし、インフラの規模については資源大国の中国に近いからか、日本を凌駕していると感じた。高速鉄道や地下鉄も日本と同じくらい便利であったし、途中で合流した韓国からの参加者に案内していただいた(しかも日本語で)ので何の不自由もなく会場に到着できた。会期中は多くの参加者の方々に国籍・年齢・立場に関係なく親切にしていただき、純粋に科学技術を追及するアカデミックな場だということを実感した。

発表会場のホールは想像していたよりも広く厳かで、場慣れしていない我々は期待よりも緊張したことを記憶している。参加者は開催国である韓国をはじめ、日本、中国から非常に多く、米国や欧州、インドからの参加もあり、本会議の規模の大きさをうかがうことができた。また我々と同年代の発表者も優れた研究発表をしていて良い刺激を受けた。発表内容としてはラジオリシス計算と SCC に関するものが目立ち、重要な研究課題であることを再認識するとともに自分の研究活動のモチベーション向上にもなった。また食事やコーヒーブレイクの場面でも多くの研究者の方々と交流をさせていただいた。学術的な話だけでなく多文化交流的にコミュニケーションしていただき、アウェー感を取り除いていただいた。

自分の研究発表の番では練習どおりの発表を全力で行い、質疑応答では活発な議論をさせていただいた。ポスター発表にも積極的に質問に行った。同じジャンルの研究を行っている方々と議論することは、自分の研究を進める上で有意義であった。

本会議に参加し、原子力発電に関する種々の課題に対してアジア全体での協調と競争の上で解決に向かっていこうという姿勢を感じた。今後のエネルギー問題を解決するために、若手研究者どうしで切磋琢磨し、課題解決に積極的に参画する継続的な努力が重要であると感じた。

以上



発表会場および発表風景



バンケットでの一枚



バンケットで催して頂いた演目風景